

6 月〇日（晴れ） 世界中の子どもたちがウンドウカイ！？

日本ではおなじみの「運動会」が、東南アジア、アフリカの国々に「輸出」されているそうです。綱引き、ボール入れ、パン食い競走、大なわとび、などスポーツを遊びのように楽しむという運動会は、日本独自のものだそうですね。

子供たちは嬉々として参加するそうです。何よりも学校への登校率が格段に向上し（貧しくて働いている子どもが多いそうです）学校に行く喜びが高まっていることが収穫です。

日本独自の「遊び」は「雪合戦」「チャンバラごっこ」「けん玉」「吹き矢」などたくさんありますね。なかには正式な競技になっているものもあります。なんと楽しいことでしょう！運動会のワールドカップが開かれるようになるのも近い将来かもしれませんね。

6 月〇日（さわやか） 夏がすぐそこまで

お寺と自宅の往復はほとんどが 134 号線を走りますけど、今日、逗子海岸では海の家建築が始まっていました。ふっともうすぐ夏だなあ、とつぶやいていました。春ではなく、夏でもないこの時期は好きだなあ。裏庭の水蓮が咲き、朝顔の芽が顔を出し始め、メダカ達が元気に泳ぎ回る今日この頃。日本に生まれてよかったあ～としみじみ思います。

「お父さんがメダカ達の前に行くときあ、メダカ達はわかるんだな、待ってたよ～ごはん頂戴～ってさ言うんだよなあ。」と娘（小 6 のヒトミ）に自慢げに言う父親。「ふう～ん、メダカにしたらさ誰でもいいんじゃない、エサくれればさ」と一言で撃沈された父親でした。

5 月〇日（元気がでた） 人間の底力！

家族で映画鑑賞です。「ビリギャル」（落ちこぼれの高校 2 年生のさやかちゃんが一念発起して見事慶応大学に合格したサクセスストーリー）を観ました。

学校の先生からは「おまえはクズだ」と言われ続け、まさに筋金入りの金髪ギャルの主人公が、初めて自分を受け入れてくれた大人（塾の先生）と二人三脚で、偏差値 30 から 70 上の慶応大に合格しました。それもわずか 1 年半で、奇跡を起こしたのです。

信じる力ってすごいのだな、人間の持つ可能性は無限なのだ、と気づかせてくれました。映画館は年頃の少女少女で一杯でした（主演の女優さんがまた可愛い！）この映画を観て、若者たちが元気になればいいなあ、「私もできるんだ！」って。

子どもよりも「問題」は大人（親）でしょう。自分ができなかったことがコンプレックスとなって、子どもを攻撃してしまう。自分を受け入れられず、認めることのできない大人が子どもたちの可能性を信じることはできませんから。「親」という字は、木の上に立って、見守り続ける、という意味です。しっかりと立てるようにならなくてはと思いました。

映画を観て自宅に帰ると、何やらヒトミが机に向かっていた。「おお～映画に刺激うけたなあ、偉いなあ～」と両親は安堵しました、が、翌日からはすっかり以前の風景に戻っていました。

それでも、信じ続けなくては行けないと歯ぎしりをしながら見守る親たちでした。（修行です）

俊栄拝